

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長 名
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について

平成 31 年度病害虫発生予察技術情報第 6 号を発表したので送付します。

平成 31 年度病害虫発生予察技術情報第 6 号

水稻におけるスクミリンゴガイの防除対策について

水稻におけるスクミリンゴガイについて、平成 31 年 2 月（一期作）及び令和元年 9 月（二期作）の石垣島での調査では、一期作水田における発生ほ場率は 87.5%（平年 20.0%）（図 1）、貝数は 0.17 頭/m²（平年 0.04 頭/m²）と平年よりやや多く、二期作水田における発生ほ場率は 68.8%（平年 24.5%）（図 1）、貝数は 0.93 頭/m²（平年 0.11 頭/m²）と平年より多い結果となっていました。

本種は無水でも半年以上生存し、湛水すると活動を再開し若苗を食害するので、今作における被害を防ぐためにも防除対策を徹底しましょう。

1 生態

- （1）本種は南米原産のリンゴガイ科の大型淡水巻貝で、1980 年代に台湾などから食用として導入されたものが野生化した。国内では関東以南に分布し、九州・沖縄地域で被害が大きい。水稻では移植後 2～3 週間までの若苗を食害し、多発すると欠株や生育障害をもたらす（図 2、3）。
- （2）成貝は最大で殻高 8 cm ほどになり、寿命は 2～3 年程度と見られる。殻色は黄褐色～黒色、螺層は 5 層右巻きで、殻口は大きく角質の蓋を備える（図 4）。周年活動するが、3 月頃から摂食や交尾が活発になり、夏季に盛んに繁殖する。
- （3）摂食活動は水中で行われ、深水田で被害が多い。落水後は土中に潜って活動を停止し、湛水すると活動を再開する。乾燥条件下では口蓋を閉じて代謝を下げ、無水でも半年以上生存できる。
- （4）母貝は夜間、水辺の植物や用水路等のコンクリート壁面に登り、直径 2～4 mm の鮮紅色の卵を数十～数百個の卵塊状に産卵する（図 5）。産卵は 3～4 日間隔で行われ、好適な環境では約 10 日でふ化し、2 ヶ月程度で成熟する。

2 防除対策上注意すべき事項

- （1）貝及び卵塊は見つけ次第除去する。人体に有害なセンチュウが寄生している場合があるので、捕殺する際にはゴム手袋を着用する。
- （2）取水口に侵入防止網等（目合 5～10mm 程度）を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ（図 6）。
- （3）本田での食害が集中する移植後 2～3 週間は 1 cm 以下の浅水管理に努め、本種の活動を抑えるとともに、メタアルデヒド粒剤などの薬剤を施用する。
- （4）畦畔及び用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない（図 7）。
- （5）収穫後は通常より浅く、遅い速度で丁寧に耕耘し、成貝を破砕する。

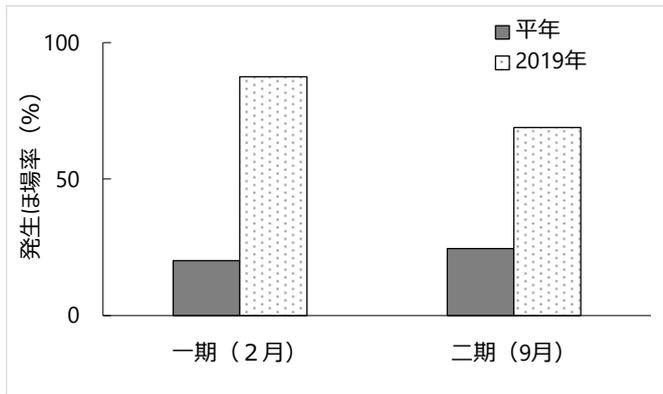


図1 スクミリングガイの発生ほ場率



図2 食害による水田の欠株



図3 イネ株元に寄生する幼貝

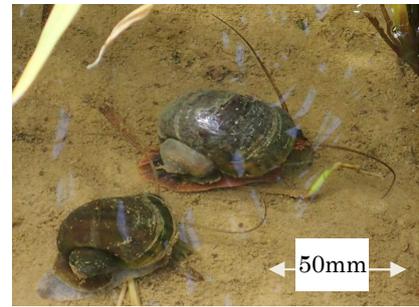


図4 成貝



図5 卵塊



図6 取水口の侵入防止網



図7 畦畔雑草上の卵塊

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933
 ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>